

## おのれ 己を知ること

院長 工藤 靖夫

古代中国の兵法家・孫子は、“敵を知り己を知り戦えば、百戦して危うからず”と言っています。しかしこの自分を知ることが非常に難しい。ギリシャの大哲学者タレスは“最も難しいことは何か”と尋ねられて、“自分を知ることだ”と答えたといひます。昨年1年間は、まさに札幌南一条病院を知るために費やしたといっても過言ではありません。まず、病院がどういう状態なのかを客観的な指標で表すことから始めましたが、自分の欲しいデータを得るのに苦労しました。療養病棟の開設など新しい事業展開をしながらでしたので、データの収集自体も時間がかかってしまいました。しかし、そのデータを基に現状を明確に分析してこそ将来展望と戦略を描くことができます。施設や設備の問題・財務的特殊性・職員配置・病床配置・部署別収益の特徴などが、1年間を経過してようやく明らかになってきました。そして、敵を知ること。敵とはまさに当院を取り巻く外部環境そのものです。一方、経営分析の手法の1つにSWOT分析というのがあります。それによれば、会社の長所と弱点を洗い出し、外部環境の状況を好ましいものと脅威となるものに分けて、それぞれについて戦略を立てることを基本にしています。まさに、孫子が指摘した兵法となんら違いはありません。

敵を知り己を知ったら、今度は戦略を考えます（まさに戦<sup>いくさ</sup>です）。今年度から、将来を見据えた戦略的マネジメントシステムとしてBSC（バランスドスコアカード）を導入しました。客観的な数値として可視化目標達成度を評価するものです。非財務的なデータを活用して、ビジョン達成の道筋を明らかにしていきます。難しい表現になりましたが、目標を立てて、どうしたらその目標に到達できるか計画をたてるのです。これにより、病院の方向性を職員全員で共有することができます。風林火山で有名な戦国の武将・武田信玄は、“人は石垣・人は城”<sup>いくさ</sup>といひました。戦に勝つにはまず人です。札幌南一条病院も、職員の力を結集して、甲斐の騎馬軍団に負けずに、現代の戦国時代を生き抜いて行きましょう。

